

平成 24 年度大台ヶ原ニホンジカ個体数調整業務及び モニタリング調査の内容について

1. 大台ヶ原ニホンジカ個体数調整業務概要

(1) 目的

「大台ヶ原ニホンジカ特定鳥獣保護管理計画（第 3 期）」に基づき、ニホンジカの個体数調整等を行い、大台ヶ原のニホンジカの保護管理に資することを目的とする。

(2) 業務内容

本業務は、1) ニホンジカの個体数調整、2) 新規捕獲手法実証試験、3) 捕獲個体のモニタリング調査を実施する。

1) ニホンジカの個体数調整（資料 2-2）

ア. 捕獲実施場所

奈良県吉野郡上北山村大字小椽（緊急対策地区）（図 1）

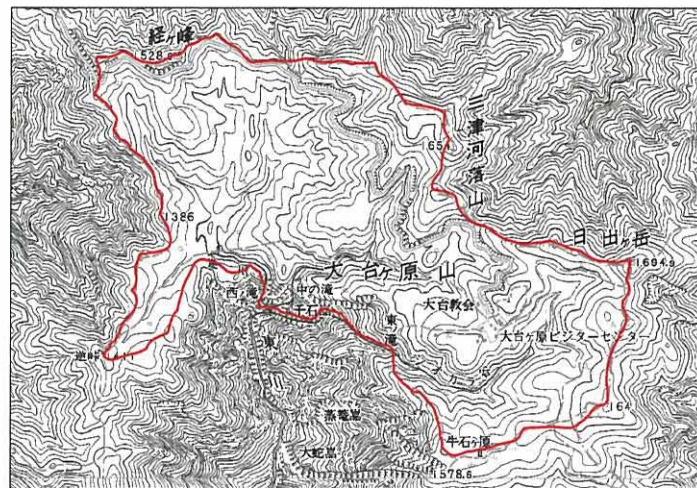


図 1 個体数調整実施場所（赤線の枠内）

イ. 捕獲目標等

捕獲目標頭数：97 頭（実証試験による捕獲頭数を含む）

捕獲手法：装薬銃（猟銃）、くくりわな

なお、装薬銃（猟銃）による捕獲は大台ヶ原ドライブウェイ閉鎖期間中に実施する。

実施日数：装薬銃（猟銃）4 月中に 3 日程度

くくりわな 40 日程度（捕獲効率の良い時期に集中的に実施）

ウ. 捕獲手法

a. 装薬銃（獵銃）

- 装薬銃による捕獲は、奈良県獵友会上北山支部の協力を得て実施する。
- 実施時期は大台ヶ原ドライブウェイ閉鎖期間中の4月に実施する。
- 捕獲手法として「餌付け誘引捕獲」を実施する。

b. くくりわな

- 4月下旬から「オリモ式」くくりわなを主に用いて捕獲を行う。
- 捕殺は、麻酔薬の過剰投与による安楽死を行う。

2) 新規捕獲手法実証試験（資料2-3、資料2-4）

- AIセンサー付き囲いわなの実証試験を30日程度行う。
- 持久的誘引餌については、ニホンジカ以外の動物（特にツキノワグマ）を誘引することがないかの試験を20日程度実施する。
- 独立行政法人森林総合研究所関西支所の高橋裕史氏と共同で、ドロップネットによる捕獲手法を検討する。

3) 捕獲個体のモニタリング調査

- 捕獲個体の外部計測を行うとともに、歯、腎臓等を採取する。
- 歯については、環境省吉野自然保護官事務所に提出する。
- 性、妊娠状況、食性、栄養状態等に関する情報を入手する。
- 必要な部位を採取した後の残滓は、処分場等にて適切な処理を行う。

2. 大台ヶ原自然再生事業ニホンジカモニタリング業務（ニホンジカに関する項目）

（1）目的

「大台ヶ原自然再生推進計画（第2期）」に基づき、大台ヶ原の自然再生の過程において、植生の保全・再生による森林の回復に呼応した動物相や群衆の回復と変化を継続的にモニタリングすることで、森林生態系の回復状況を把握する。加えて、「大台ヶ原ニホンジカ特定鳥獣保護管理計画（第3期）」に基づくニホンジカに関する調査等を実施し、ニホンジカ個体群の保護管理に資することを目的とする。

（2）業務内容

本業務では、1）ニホンジカ生息状況調査として、①ライトセンサスと②GPSテレメトリー調査、2）年間捕獲目標頭数の設定を実施する。

1）ニホンジカ生息状況調査

ア. ライトセンサス

- 4ルート（大台ヶ原ドライブウェイ、西大台（七ッ池～開拓）、東大台（上道から尾鷲辻と中道から牛石ヶ原）、ライトセンサスを行う（図2）。
- 調査方法は、片側100m（両側200m）程度の観察幅を対象とする。
- 1ルートにつき2回の反復調査を行う。天候の悪い日は極力避けて実施する。
- 調査時期は、10月頃に1回実施する。

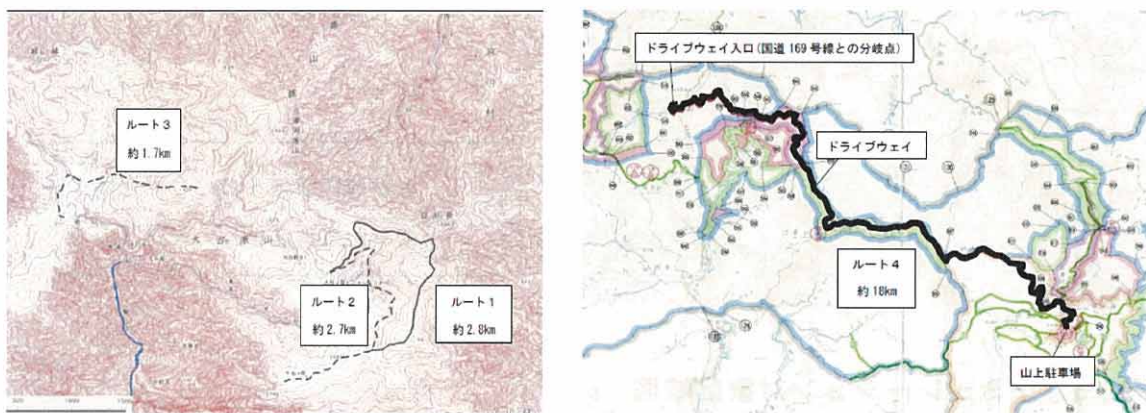


図2 ライトセンサス位置図

イ. GPS テレメトリー調査

- GPS 首輪型発信器をメスジカに装着し、ニホンジカの行動圏、移動経路等を調査する。
- 調査個体は、メス 2 頭程度とする。
- 位置測位時間は、これまでの 4 時間間隔から 6 時間間隔へ変更する。

2) 年間捕獲目標頭数の設定

- 平成 24 年度大台ヶ原自然再生事業植生モニタリング等業務で行われる生息密度調査（糞粒調査）によって得られた生息密度から推定生息数を算出し、次年度に実施するニホンジカ個体数調整の年間捕獲目標頭数を推移行列シミュレーションによって決定する。
- 推移行列シミュレーションは、大台ヶ原地域が開放系であることを考慮するため有効捕獲面積を考慮した地域 23.24 km²を対象（図 3）に、目標生息密度が平成 28 年度までに 5 頭/km² となるよう実施する。

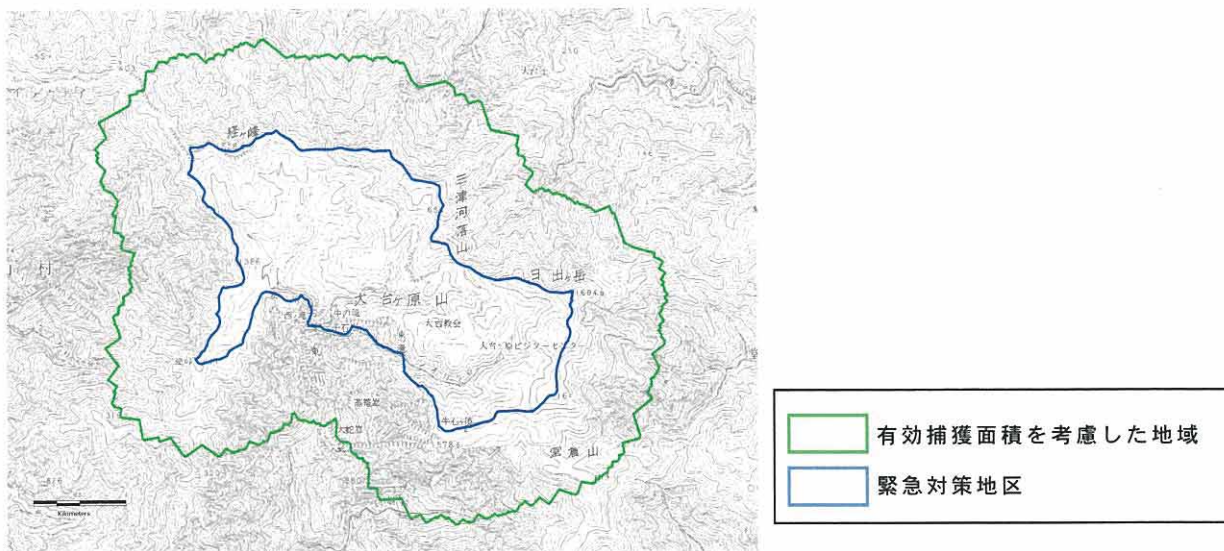


図 3 シミュレーション対象区域図